

:update^{MINI}

#034



THIS
IS STATE-OF-THE-ART
WIRELESS
COMMUNICATION



実寸大

BOLERO MINI

NOTHING LESS - JUST LESS OF IT

■ Bolero に期待されるワイヤレス・パワー、明瞭な音質、そしてシームレスな統合のすべて——それらがさらに小型かつ軽量に。RIEDEL 史上最薄最軽量のワイヤレス・インターカム・ベルトバック Bolero Mini が登場しました。最大限の快適性とできる限りの目立ちにくさを追求した Bolero Mini は、スマートフォンよりも軽い洗練された超小型設計で、妥協のないパフォーマンスを実現します。



“ 軽量かつ薄型、どんな状況にも対応できるこの製品は、制作のあらゆる場面において次世代のコミュニケーションを実現します ”

ライブ・イベント、放送、劇場、スポーツといっためまぐるしく変化する世界のために設計された Bolero Mini は、ワイヤレス・ベルトパックの可能性を再定義します。わずか 165 グラム、薄さ 28 ミリという軽さで、衣装にクリップで留めたり、ジャケットの下に隠したり、ハーネスにストラップで固定したりと、動き回れるように作られています。専用音量調節ボタン 2 個と、通話、受話、主要機能へのクイック・アクセス用のプログラム可能なボタン 4 個による合理的なコントロールにより、コミュニケーションが楽になります。コンパクトなサイズにもかかわらず、Bolero Mini は小規模プロダクションや一時的なプロジェクトのためのスタンドアロン・セットアップから、拡張可能な Artist インターカム・エコシステムへの完全統合導入まで、Bolero の完全なエクスペリエンスをお届けします。RIEDEL 独自の ADR テクノロジーはマルチパス反射への感度を低減し、他のシステムが苦戦するような厳しい RF 環境でも Bolero が完璧に動作することを保証します。

舞台俳優、リガー、フロア・マネージャーの方々も、Bolero Mini があれば、機材に煩わされることなくパフォーマンスに集中できます。軽量で薄型、そしてあらゆる用途に対応できるこの製品は、プロダクションのあらゆる場面で、次世代のコミュニケーションを実現します。

IBC2025 において RIEDEL は同社史上最もコンパクトなワイヤレス・インターカム・ベルトパック Bolero Mini を発表しました。スマートフォンよりも軽量で、厚さわずか 28 ミリの Bolero Mini は、衣装にクリップ留めしたり、ジャケットの下に着用したり、ハーネスにストラップで固定したりと、機動性、快適性、そして目立ちにくさが求められるプロダクション向けに設計されています。

Bolero Mini はスリムな形状ながら、Bolero の完全な機能セットを備えます。RIEDEL の ADR テクノロジーを搭載し、厳しい RF 環境でも安定したパフォーマンスを発揮します。また、高度な 5G フィルタリングによってスペクトラム耐性を強化し、極めて要求の厳しいライブ環境でも明瞭で信頼性の高い通信を実現します。

Bolero Mini は、Bolero の 3 つのモード—— Artist との統合、スタンドアロン・リンク、スタンドアロン 2110 (AES67) ——すべてに対応し、コンパクトでありながら汎用性も抜群です。プログラム可能なボタン 4 個、Bluetooth 接続、そしてタッチ&ゴーの NFC 登録機能を備え、目立たず制作環境に適したデザインでありながら直感的な操作性を提供します。

Bolero Mini は、Bolero のパワーをこれまでで最も軽量で平たい形状に凝縮し、妥協のない比類のない動きの自由をプロダクション・チームに提供します——劇場、ライブ音楽、放送などに最適です。

BOLERO MINI の主な特長

- 重量 165 グラム、薄さわずか 28 ミリ
- Bluetooth 接続
- シンプルな NFC 無線登録
- 分散型インテリジェント・アンテナ・ネットワーク
- 設置毎に最大 250 個のベルトバックと 100 台のアンテナに対応
- 帯域幅をインテリジェントに活用し、アンテナ 1 台で最大 10 個のベルトバックに対応
- マルチパス緩和のための高度な DECT 受信機 (ADR)
- シームレスなハンドオーバーとローミング
- 冗長 PoE+ および DC 電源アンテナ方式



実寸大



SAY hi

TO A NEW ERA OF BROADCAST CONTROL

HI HUMAN INTERFACE NOW PART OF RIEDEL COMMUNICATIONS

■ hi human interface® を RIEDEL ファミリーに迎えることができるのは大変嬉しいことです。ブラウザ・ベースでベンダーに依存しないこの制御システムは、極めて複雑なメディア・インフラにも明瞭性とシンプルさをもたらし、放送システムの構成、制御、運用方法を刷新するように設計されています。このシステムはプラットフォームに依存しないユーザー・インターフェイスを提供し、ベースバンド・ルーター、マルチビューワー、映像&音声ミキサー、サードパーティ製 SDN コントローラーなど、さまざまなデバイスを管理できます。



“ hi があれば、放送局は日常業務を効率化し、準備時間を短縮し、将来にわたって制作を継続できる、強力かつ使いやすいツールを手に入れることができます ”

- **柔軟性:**ベンダーやフォーマットに依存しない hi は、スタジオ、中継車、リモート・プロダクション、クラウド・システム全体で映像と音声とデータを統合します。
- **使いやすさ:**使い慣れたシンプルでタッチベースのインターフェイスで、ルーティング、タリー、パラメーター、ワークフローを簡単に制御できます。
- **シンプルさ:**自動デバイス検出とゼロ設定によるセットアップによって、hi は大規模システムでも迅速に導入できます。
- **拡張性:**1 台のラップトップから企業全体、あるいはクラウド・ホスト型のインフラまで、hi の分散アーキテクチャは複雑さを増すことなく、回復力と拡張性を保証します。

hi はタッチスクリーンまたは RIEDEL SmartPanel で操作できますが、IBC2025 では専用の **hiPush ハードウェア・パネル**も展示します。ラックマウント型の 1RU サイズで 18 個の高コントラスト LCD ボタンを備えた hiPush18 から、2RU サイズで 54 個のボタンを備えた hiPush54、そして最大限の柔軟性を実現する PoE 給電式の hiPush32Desktop まで、合計 6 種類のパネル・バリエーションをご用意しています。これらに加え、最新モデルとして PoE 給電式の多機能タッチスクリーン・ロータリー・ノブ hiDot が加わりました。ハードウェアに加え、**充実し続けるソフトウェア機能**も、hi システムの潜在能力を最大限に引き出すためのツールと柔軟性をさらに高めています。

REFSUITE

POWERFUL INDIVIDUALLY - UNSTOPPABLE TOGETHER.

■ この夏にリリースされた最新のマネージド・テクノロジー・ソリューション RefSuite によって、RIEDEL はスポーツと放送技術における新たなスタンダードを確立します。RefSuite は、スポーツ審判とコーチング、ライブ・イベント管理の特有のニーズに合わせて特別に設計された、相互運用可能なハードウェアとソフトウェアの統合エコシステムです。RefCam、RefBox、RefComms、SidelineComms、RefCloud という 5 つのコア・コンポーネントを、シームレスに統合された単一のサービスにまとめ上げ、Easy5G プライベート 5G ネットワークと Riedel Operations Center (ROC) を補完することで、遠隔のエンジニアリングとモニタリングとサポートを実現します。各モジュールはそれぞれ強力ですが、RefSuite の真の価値、すなわち効率性、信頼性、革新的なイノベーションを実現するのは、それらの緊密な統合なのです。



“ RefSuite は、シームレスな配信という当社のビジョンを体現しています。国際連盟、リーグ、放送局、プロダクション・パートナーの厳しいニーズに応えるために設計された、統合されたテクノロジーとサービス・モデルです。これはほんの始まりに過ぎません。RefSuite は、リモート・プロダクション、パフォーマンス分析、没入型ファン体験のための新たな可能性を切り開く、新世代の統合エコシステムへの第一歩であり、モーター・スポーツ、海洋、そしてライブ・プロダクション環境の未来を形作ります ”

マーク・シュナイダー

グローバル・イベント担当エグゼクティブ・ディレクター

Riedel Communications



RefCam®

審判の視点

RefCam は審判の視点から安定した広角映像を撮影できる超軽量のヘッドマウント・カメラです。臨場感あふれる一人称視点で試合のライブ中継、試合後の分析、トレーニングを充実させ、審判の意思決定とファン・エンゲージメントの向上に貢献します。



RefComms

審判のコミュニケーション

RefComms はプロの審判のために設計された安全で信頼性の高いワイヤレス通信システムです。RIEDEL の Bolero S をベースに構築され、独自のレーザー技術と高度な暗号化技術により、あらゆる環境で安全かつクリアな音声を提供します。RefSuite の中核として、RefCam および RefBox と連携し、協調的なリアルタイムの判定を実現します。



SidelineComms

コーチとスタッフのコミュニケーション

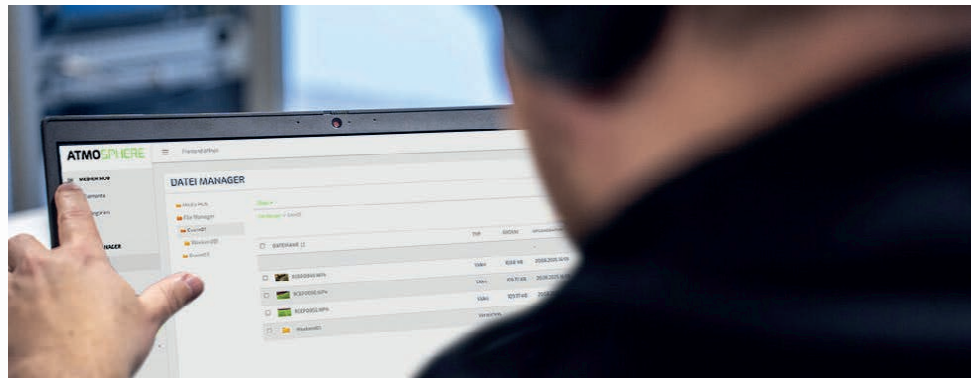
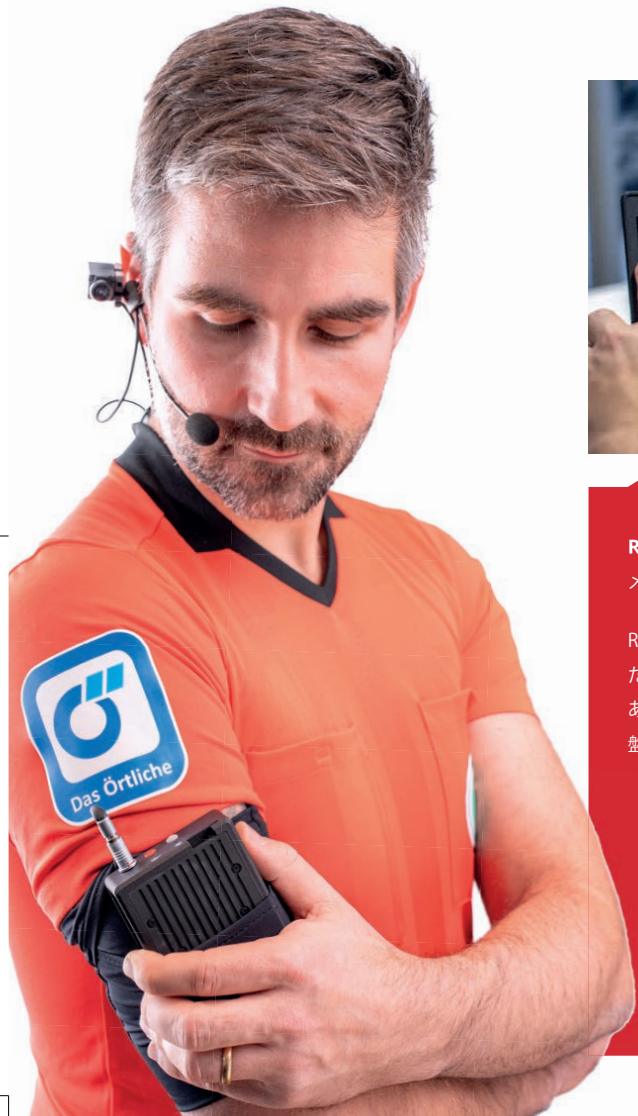
SidelineComms は、コーチング・スタッフ向けに暗号化され、干渉のないサイドライン・コミュニケーションを提供します。RefComms と同じ Bolero プラットフォーム上に構築されているため、日々のトレーニングと試合当日の両方で一貫したパフォーマンスを実現します。チームがどこにいてもリアルタイムかつ安全に戦略を調整できるようにすることで、RefSuite のサークルを完成させます。

RefBox

ビデオ・レビュー

RefBox は審判とコーチング分析に特化した包括的なビデオ・レビュー・システムで、認定済み VAR テクノロジーを基盤としています。最大 25 本の同期カメラ・フィールドに対応し、スローモーション機能やクリップ・エクスポート機能も備えており、RefSuite エコシステムの分析コアとして機能します。RefComms と統合されているため、審判は通信用ベルトバックからリアルタイムのレビュー・マーカを直接作成できます。





RefCloud

メディア・クラウド・サービス

RefCloud は wige SOLUTIONS GmbH & Co. KG との共同開発による、映像コンテンツの保存、処理、共有のためのクラウド・ベースのメディア管理システムです。RefBox および RefCam メディアと完全な互換性があり、関係者間でのシームレスなコンテンツ配信を可能にします。RefSuite エコシステムのコンテンツ基盤として、共同ワークフローとメディアへの一元的なアクセスを実現します。

REFSUITE ADD-ONS



Easy5G

低遅延ワイヤレス・ビデオ・バックボーン

ライブ配信をシンプルに: Easy5G は、キャリア・グレードの信頼性と Wi-Fi 並みのシンプルさを兼ね備えたプライベート 5G ネットワークです。ライブ・イベントやスポーツ中継向けに最適化されており、RefCam を介したフルピッチ・ビデオ・ストリーミングや、リモート RefBox レビュー・ワークフローなどの用途に最適です。

PRODUCT NEWS



ROC

リモート・オペレーション・センター

ROC は、遠隔監視と信号ルーティングとシステム制御のための RIEDEL の 24 時間 365 日運用ハブです。映像、通信、テレメトリーなど、ROC は最先端のインフラを介して会場と専門家によるサポートとを繋ぎます。リモート・エンジニアリングとサポートを通じて、試合会場がどこであっても、RefSuite システムの俊敏性と運用性を確保します。



SIMPLYLIVE

■ 2025年8月、RIEDELはSimplyLiveビデオ・プロダクション・ポートフォリオの大幅な拡張を発表し、放送、スポーツ、ライブ・イベントのワークフローの適応性、拡張性、統合性を向上させるべく設計された新ソリューションと機能強化を導入しました。

hi THERE

INTERVIEW: TAMÁS SZÁNTÓ - PRODUCT OWNER hi, RIEDEL COMMUNICATIONS

■ IBC2025において、RIEDELはhi - human interfaceが正式にRIEDELファミリーの一員となることを発表しました。放送やメディア・インフラ向けの強力な制御システムであるhiは、2018年以来、共同プロジェクトや緊密なコラボレーションを通じてRIEDELと長年にわたって結びついてきました。そして今、hiがポートフォリオに加わることで、このパートナーシップは刺激的な新章へと突入します。hiを支えるチーム、開発のストーリー、そして今後の展望について、hiの創設者の一人であるタマス・サント氏に話を聞きました。



こんにちは、タマス！ あなたの経歴は？ この業界に入ったきっかけは何ですか？
大学のTVおよびラジオ・スタジオからプロの放送業界へと直接進みました。ハンガリーの民間テレビ局TV2でキャリアをスタートさせ、ブレイアウト部門のテクニカル・マネージャーとして働き、その後はニュースやプロダクション・スタジオに携わりました。その後、Boschでエンジニアリング・グループのリーダーとして7年間勤務し、自動車用電子機器の連続再生改修技術の開発を担当しました。

hiのアイデアはどのようにして生まれたのですか？

TV2で友人のタマス・ファルカス（現在はhiのソフトウェア開発責任者）と出会いました。彼は当時、フリーランスとしてクイズ番組向けのカスタム・ソフトウェアを開発するソフトウェア・エンジニアでした。共通の関心を持ち、ハードウェアとソフトウェアの専門知識を結集した私たちは、2007年に趣味のプロジェクトとして合併会社を設立しました。私たちの焦点は、システム・インテグレーター向けのカスタム・デバイス（チェンジオーバー・コントローラー、ルーター・パネル、タリー・コントローラーなど）の開発でした。既製品ではなく、独自性のある専用ツールです。

需要が高まるにつれ、手頃な価格で合理化されたコントローラーに対する市場の真のギャップが明らかになりました。2017年にBroadcast Solutions Germany社が、最新かつ直感的な制御システムの開発を検討しており、ハンガリーのチームから当社を紹介されました。ブダペストで面談した際、私たちのアプローチと彼らのビジョンが完璧に合致していることははっきりしていました。数週間のうちに、実用的な概念実証システムを構築し、IBC 2017で展示しました。好評を博したことで、私たちの計画が正しいことが確認され、2018年初頭にはコア・チームを結成し、後にhiとなるシステムの本格的な開発を開始しました。

市場のどのような課題が、新たなアプローチの導入を決断するきっかけとなったのでしょうか？

システム・インテグレーターとして、Broadcast Solutionsは中継車プロジェクトと固定設備の両方において、市販の制御システムを頻繁に使っており、それぞれの長所と短所を深く理解しています。最大の課題は、設置に非常に長い時間を要することでした。システム導入と同時に、相当数のエンジニアを手配する必要があり、最終的なコストが非常に高額になっていました。そこで、トレンドを打破し、次世代の制御システムを定義することで、プロセスを簡素化、迅速化し、最終的にはコスト効率を向上させる方法を考えました。

hiは市場の他のソリューションとどのように異なっていたのですか、そして今も異なっているのですか？

システムを設計する際に、市場の他のソリューションとの差別化を図るため、3つの主要な原則を確立しました。

1. ウェブ・テクノロジーを活用し、最新のクラウド対応アーキテクチャを開発する。これによって製品の将来性を確保します。
2. PCとタブレットの両方から、アプリケーションのインストール不要で、どこからでもアクセスできるウェブ・ベースのユーザー・インターフェイスを使用する。これには包括的なユーザー権限管理のコンセプトも含まれます。
3. タグを用いて、すべての信号経路とその意味をシステムに学習させ、日常業務に必要なコントロール・パネル・ビューを自動的に生成および更新できるようにする。これによって、試運転時およびその後の使用時に、手作業による設定作業を大幅に削減できます。



hi チーム全員が RIEDEL に加わります。彼らが RIEDEL にもたらす強みや専門性の中で、特に際立つものは何だと思いませんか？

hi はベンダーに依存しない制御システムであり、統合後もスタンドアロン製品として維持していく予定です。私たちが提供する最も刺激的な専門分野の一つは、異なるメーカーの多数のプロトコルとそれらの多様な操作ロジックを、単一の統一されたワークフローに標準化する能力です。課題は、ユーザーが特別な技術知識を必要とせずに、ベースバンド、NMOS、NDI、Dante などのリソースを透過的、安全、かつ直感的に操作できるようにすることです。

RIEDEL チームと一緒にになりますが、最も楽しみなことは何ですか？

創業当初から、私たちは RIEDEL とは互恵的な関係を維持してきました。最初の共同プロジェクトは 2018 年初頭に遡ります。長年にわたり、開発と販売の両面で互いに支え合ってきましたので、共に未来を形作っていくことは自然な流れだと感じています。

“ RIEDEL ユーザーでなくても、この製品のメリットを享受できます—— hi は、RIEDEL と競合する製品も含めてサードパーティ製品とシームレスに統合できるため、最大限の柔軟性とオープン性が確保されます ”

hi は RIEDEL の製品ポートフォリオにどのように位置づけられるのでしょうか？ 独立したままになるのでしょうか？ それとも他の製品ファミリーに統合されるのでしょうか？

hi は RIEDEL の専用製品シリーズとなり、専任のプロダクト・マネージャーが管理し、意欲的な開発チームによってサポートされます。同時に、hi は独立した制御およびワークフロー・システムとしても運用を継続します。RIEDEL ユーザーでなくても hi のメリットを享受できます—— hi はサードパーティ製品、さらには RIEDEL と競合する製品ともシームレスに統合されるため、最大限の柔軟性とオープン性が確保されます。それと同時に、RIEDEL のポートフォリオ全体で完全な互換性を確保し、統合されたワークフローを実現することで、孤立した製品部門を提供するサプライヤーではなく、ソリューション・プロバイダーとしての RIEDEL の地位を強化したいと考えています。

この広範なエコシステムの中で、hi はどのように進化していくとお考えですか？

RIEDEL の販売力は hi に新たな扉を速やかに開き、新しい国々や大陸を含むより幅広い市場で製品の認知度と成功をもたらすと考えています。また一方で、インターカム・ワークフロー、STAGE プラットフォーム、プロビジョニング・ツールセットの開発など、他の RIEDEL 製品とのより深い統合にも大きな可能性を感じています。現在、私たちは中小規模の放送システムに強みを持っていますが、RIEDEL ブランドの下で、プロ AV/ シアターや施設分野にも進出していく態勢が整っています。



▶▶ hi 創設者のタマス・サント氏 (プロダクト・オーナー) とタマス・ファルカス氏 (ソフトウェア開発責任者)

この組織統合は hi の既存のお客様にどのようなメリットをもたらしますか？

現在、hi のサポート・サービスは非常に好調に推移しており、統合後もこの水準を維持する予定です。同時に、複数のタイムゾーンにまたがるサポートの提供が可能になり、サービス提供範囲の拡大も期待できます。さらに、開発における相乗効果と RIEDEL 製品とのより緊密な連携によって、既存のお客様のシステムに新たな価値ある機能を追加し、強化することができます。

hi は放送やライブ・プロダクションにおける RIEDEL の DNA をどのように補完するのでしょうか？

放送やライブ・プロダクションにおいて hi の恩恵を受けられる分野はすでに存在します。例えば、NMOS レジストリ、Dante、NDI 統合などです。長期的には、RIEDEL 製品と対応するコントロール・レイヤーを統合した包括的なソリューションをお客様にお届けできるようになります。当社の開発チームとワークフローは非常に俊敏であり、2~3 ヶ月ごとにエキサイティングな機能を備えた新バージョンをリリース可能です。これにより、製品への関心と期待を高く保つだけでなく、お客様のご要望にも迅速に対応できます。

FROM THE REF'S EYES

EASY5G AND REFCAM BRING FANS INSIDE
GERMANY'S MOST FAMOUS CLUB SOCCER FIXTURE

■ 4月に開催された期待の「デア・クラシカー」においてドイツのサッカー・チーム、FCバイエルン・ミュンヘンとボルシア・ドルトムントが激突したとき、注目を集めたのはピッチ上のアクションだけではありませんでした。その舞台裏では、Riedel Communications がスポーツ中継の戦略を静かに書き換えようとしていました。満員のスタジアムに Easy5G™ プライベート 5G ネットワークと RefCam® Live システムを初導入したのです。





“このセットアップは、審判の目の位置から1080p50のライブ・ビデオを直接ストリーミングして、ファンの皆さんに独自の安定した視点のフィードをお届けしました”



ドイツ・フットボール・リーグ (DFL) が主導したこのプロジェクトは、技術的に大きなマイルストーンとなりました：これほどプレッシャーのかかる、注目を集める環境で、Easy5G と RefCam が同時に導入されたのは未曾有の出来事でした。ミュンヘンのアリアンツ・アリーナに7万5000人のファンが詰めかける中、RIEDEL のチームはわずか1時間足らずで Easy5G ネットワークを構築しました。これは、常設の技術設備がない会場でも、高度な放送インフラをいかに迅速に設置できるかを実証するものでした。

このイノベーションの核となったのは、審判のヘッドセットに装着する軽量のヘッドマウント・カメラ、RefCam Live システムでした。このセットアップは、審判の目の位置から1080p50のライブ映像を直接ストリーミング配信し、ファンの皆様に独自の安定した視点映像を届けました。

カメラと通信機器は審判員のジャージの下に目立たないように隠されており、審判が自由に動き回って試合に集中できる一方、自宅の視聴者はフィールド上のあらゆる判定ややり取りを最前列で見ることができました。

RIEDEL のマネージド・テクノロジー部門は、技術的なセットアップや周波数管理から試合審判員へのオンサイト・サポートまで、導入のあらゆる側面を担当しました。審判のロッカー・ルームなど、5G の電波が届かないエリアも考慮され、Wi-Fi ベースのビデオ・プレビューによって試合前のプロセスが効率化されました。

DFL にとって、これは単なる新しいガジェットのテストではありませんでした。当リーグはファンのサッカー体験を根本から変えるチャンスだと捉えたのです。RIEDEL チームは、わずか1台の Easy5G ベース・ステーションでピッチとトンネル全体をカバーし、試合中を通してシステムをシームレスに運用することに成功しました。

審判員の視点は放送の見栄えにとどまりません。審判員の役割をファンに分かりやすく伝えるのに役立つだけでなく、審判員のトレーニングにも役立つなど、その効果は多岐にわたります。当リーグは、この視点を共有することで、審判員が直面する課題への理解と認識を深めたいと考えています。

RefCam の映像は、ブンデスリーガ特別番組『Der Klassiker Unseen – Ref'sEye View』の目玉にもなり、ソーシャル・メディアで広く共有されました。この取り組みは、IFAB のボディカメラ・テスト・プログラムならびに FIFA および DFL の支援を受けて実現したもので、ブンデスリーガのイノベーションとファン・エンゲージメントへの取り組みを改めて強調するものです。

DFL の製品管理&イノベーション担当副社長、ドミニク・ショラー氏にとって、この実験は明らかな成功でした。「私たちは常に、ファンの皆さんを試合に近づけ、スポーツ・メディアの新たな基準を確立する方法を模索しています。RIEDEL との協力により、そのビジョンを迅速かつ完璧に実現することができました」





GARAGE 59 CHASING GLORY

WITH RIEDEL'S CUTTING-EDGE COMMUNICATIONS



■ Garage 59 は、GT レース界で最もダイナミックな英国チームの一つとして着実に名声を築いてきました。ブラックリーを拠点とする、2016 年設立のこのチームは、デビュー・イヤーにブランパン GT シリーズ耐久カップを獲得し、瞬間にその名を馳せました。それ以来、Garage 59 はマクラーレン、フェラーリ、アストンマーティンといったマシンを駆り、ヨーロッパのトップ GT 選手権で確固たる地位を築き、GT ワールド・チャレンジ・プロアマ耐久ドライバーズ・タイトルや英国 GT 選手権シルバー・アマ・タイトルなど、数々のタイトルを獲得してきました。現代の GT レースのみならず、Garage 59 は歴史的なレースの伝統を守り続け、グッドウッド・リバイバルなどのイベントに参加したり、ロータス 22 やカンナム・マクラーレンといったクラシック・マシンのメンテナンスにも力を入れています。

しかし、Garage 59 は 2025 年シーズンの準備を進める中で課題に直面していました。それは、耐久レースというプレッシャーのかかる環境において、シームレスで信頼性の高い通信を確保することでした。GT ワールド・チャレンジ・ヨーロッパとインターナショナル GT オープンに 3 台のマシンが参戦する中、完璧な連携はこれまで以上に重要になりました。しかし、チームの以前の通信体制では、一秒一秒が命取りとなって一瞬の判断がレースの成否を分ける 24 時間体制のレースの要求に応えるのに苦労していました。広大なサーキットを走り、予測不可能なコンディションの中で、複数のマシン、ピットクルー、エンジニアを管理するという複雑な作業は、明瞭性や信頼性のわずかな欠落が、大きな損失につながるミスにつながる可能性を秘めていました。



“ GT ワールド・チャレンジ・ヨーロッパとインターナショナル GT オープンに 3 台の車が参戦しましたので、完璧な調整がさらに重要になりました ”

Garage 59 は、自らの野望を実現するにはテクノロジーの抜本的な変革が必要だと認識し、解決策を求めて Riedel Communications 社に目を向けました。新シーズン開幕直前に結ばれたこのパートナーシップにより、RIEDEL の Bolero ワイヤレス・インターカム・システムと RiFace 無線インターフェイスがチームの武器となりました。RIEDEL のマネージド・テクノロジー部門がサポートするこの完全に統合されたセットアップは、非常に明瞭かつ拡張可能な通信を実現し、白熱したレースの中ですでにその価値が証明されています。このシステムには Bolero インターカムだけでなく、カスタム・ヘルメット・キットと Bolero、StageLink、RiFace の各ユニットをシームレスに統合する専用の RIEDEL ラックも含まれています。この構成によってレース中の連携が劇的に改善され、Garage 59 のクルーはこれまでにないレベルの効率性と自信を持って活動できるようになりました。

チーム代表のアンドリュウ・カーカルディ氏は、Garage 59 に真の競争力を与えたのは RIEDEL システムだと考えています。その明瞭性、信頼性、適応性が、チームが勝利を目指す上で欠かせないツールになったと述べています。



IMPRINT

Published by
RIEDEL Communications GmbH
Uellendahler Str. 353
42109 Wuppertal
Germany
www.riedel.net
Editorial Director: Julian Bülhoff
Contact: julian.buelhoff@riedel.net

© 2025 RIEDEL Communications GmbH
All rights reserved. Windows is a registered trademark of Microsoft Corporation. All trademarks are the property of their respective owners. Product specifications are subject to change without notice. This material is provided for information purposes only; RIEDEL assumes no liability related to its use. September 2025.

“ Game Creek のお客様が最新トラックに RIEDEL の機材を搭載することを具体的に要望されたとき、Game Creek は喜んでイエスと答えました！ ”



■ リモート TV プロダクション・トラックがなければ、今日のスポーツ中継は実現しなかったでしょう。トラック・プロバイダーの Game Creek Video は、世界最大級の TV ネットワーク、制作会社、報道機関にサービスを提供しています。同社の中継トラック群は、プロ・フットボール、野球、モーター・スポーツ、ゴルフ・トーナメント、スキー競技など、主要なスポーツ・イベントやエンターテイメント・イベントを完璧に中継しています。



米国の大手スポーツ放送局 2 社が最大規模の番組制作を行うために作られたこのトラックは、相互接続された A、B、C ユニットの 2 セットで構成され、放送局が固定設備で用いているのと同じ RIEDEL 製品を使用しています。トラックには、ライブ・プロダクション中の高音質通信を可能にする RIEDEL Artist デジタル・インターカム・システムと、配信を効率化する RIEDEL MediorNet FusioN スタンドアロン IP コンバーターが搭載されています。

RIEDEL FusioN ゲートウェイ・シリーズが、3 台のトラック・システム全体にわたってそれぞれのローカル・モニターに UHD 出力を提供するので、映像供給用の集中型ゲートウェイ・ソリューションは不要です。約 200 台の FusioN 3B デバイスが SMPTE ST 2110 信号をモニターまで取り込んで SDI に変換します。信号交換に ST 2110 を用いることで、Game Creek は相互接続の数を削減し、システム間の信号共有を簡素化しました。また、集中型ゲートウェイが不要になったことで、トラック内の配線量（そして重量）を削減でき、交通省の重量基準を満たす能力に大きな変化をもたらしました。

同様に、Artist デジタル・マトリクス・インターカム・システムが新型トラックの最も重要なコンポーネントの一つになっています。設置面積が小さいため、大規模な集中型インターカム・システムを 2RU の分散型システムへと小型化することができました。Game Creek は各ユニットに Artist-1024 ノードを導入し、3 台のトラック・システムをサポートするためにノード毎に少なくとも 768 ポートを使用しました。インターカムと音声ミキサーの間にはかなりの規模の相互接続があり、放送局の施設にあるインターカム・システムとの接続専用のポートがいくつか用意されています。Artist は、ST 2110 対応 CCU と、CCU からのアナログ信号を Dante、そして AES67 に変換する必要がある従来のカメラ・セットアップの両方からのインターカムもサポートしています。

ユーザーは RIEDEL の優れた音質を高く評価しています。長時間ヘッドセットを装着しなければならない人々にとってははるかに快適な体験を提供するからです。音声の忠実度の高さは大きなセールス・ポイントでした。

Game Creek は、トラック内のオペレーター・ステーションに約 90 の RIEDEL SmartPanel RSP-1232HL インターフェイスを導入しています。さらに、会場内のクルーとの通信用に現場にもいくつか設置しています。Game Creek はまた、RIEDEL の Bolero ワイヤレス・インターカム・システムも導入し、トラック内のオペレーターと現場のオペレーターとが常に連絡を取り合えるようにしています。

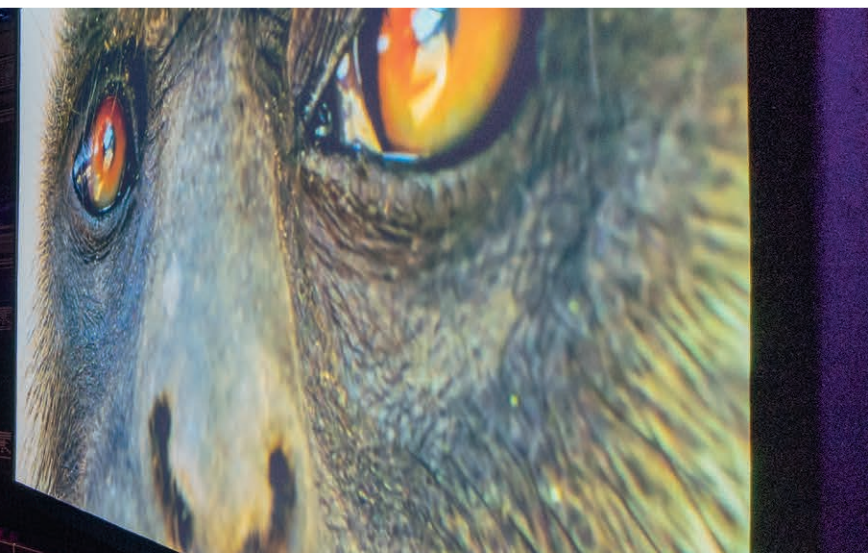
中継車のワークフローは例えばスタジオや劇場とは大きく異なるので、Game Creek の専門的なアドバイスは、RIEDEL が最適なソリューションを提供する上で役立っています。実際、Game Creek のチームは RIEDEL の最新のファームウェア・アップデートの多くに大きく貢献しています。



“ RIEDEL が際立っているのは、単に技術の進化に追随するのではなく、システムの進化に継続的に投資している点です。私たちのニーズに耳を傾けて迅速に対応してくれるのは非常に貴重です。失敗を許さない私たちのビジネスにおいて、RIEDEL のような考え方を共有してくれるサプライヤーがいることは、本当に心強いです ”

パット・サリヴァン
社長
Game Creek Video

HALL OF SOUND



BOLERO POWERS SEAMLESS BACKSTAGE COMMUNICATION AT ROYAL ALBERT HALL

■ ロンドンのロイヤル・アルバート・ホールは、150年以上にわたり、オーケストラ・コンサートやロック・ショーからバレエ、スポーツ・イベント、詩の朗読会まで、あらゆる催事に使われてきました。この象徴的な会場は、建築の壮麗さだけでなく、変化に対応できる舞台と、あらゆるイベントに合わせて姿を変える複数のパフォーマンス空間を備えた柔軟性の高さでも知られています。

しかし、この多様性には特有の課題が伴います。それは、技術インフラ、特に舞台裏の通信を、パフォーマンスそのものと同様に機敏で信頼性の高い状態に保つことです。そのため、ロイヤル・アルバート・ホールは最近、RIEDELのBolero ワイヤレス・インターカム・システムを導入し、館内通信システムのアップグレードの中核としました。



▶▶ ベン・エヴァンス、ナチョ・リー、リアム・クロフト

“
このシステムはステージ・マネージャーや
ショー・ディレクターだけのものでは
ありません”



Bolero 導入以前、同ホールの通信環境はシームレスとは程遠いものでした。技術チームは様々なメーカーからのレンタル・システムに頼らざるを得ず、それが助けになるどころか、むしろ頭痛の種になることも少なくありませんでした。こういったシステムは複雑なライセンス管理を必要とし、制作チームが持ち込む機材と必ずしもスムーズに連携できるとは限りませんでした。

同ホールは、もっとユーザーフレンドリーなインターカムを必要としていました。明瞭で信頼性の高い音声を提供し、多くの顧客が好む機器と簡単に連携できるインターカムです。目指したのは、ネットワーク・ベースの柔軟性と容易な拡張性を備え、競合他社が提供する一対一型のソリューションを凌駕するシステムでした。



Bolero システムはあらゆる要件を満たしていました。ネットワーク・ベースの設計により、親密なトーク・ショーからオリヴィエ賞のような大規模なプロダクションまで、あらゆるニーズに迅速に対応できます。ショーの規模が標準の 10 台のワイヤレス・パックでは足りない場合、ホールは追加のバックやアンテナをレンタルするだけで、システムを即座に拡張できます。例えば、2024 年のオリヴィエ賞授賞式では、ホール内の Bolero システムを簡単に 30 パックまで拡張し、RIEDEL の Artist メインフレームやパネルとシームレスに接続して、会場全体で 30 人以上のユーザーにサービスを提供しました。

Bolero のインパクトは舞台裏でも日々感じられています。当システムはステージ・マネージャーやショー・ディレクターだけのものではありません。「シャウト」機能により、FOH およびモニター・エンジニアは常に連絡を取り合えるだけでなく、独立したコミュニケーション・リングにより、照明、音響、制作チーム間の連携を密に保てます。ホールの技術スタッフはイベント毎にシステムを調整できるため、来場プロダクションのワイヤレス・システムがショーの途中で故障した場合でも円滑な運用が可能です。Bolero はすでにそのような事態を救っています。

ロイヤル・アルバート・ホールは Bolero を中核に据えることで、卓越した技術力と信頼性に対する評価をさらに高めました。この新しいシステムの使いやすさ、堅牢な互換性、そして容易な拡張性により、どんなに複雑なプロダクションでも、完璧なコミュニケーションを実現できます。ホールのワールド・クラスのチームと彼らがサポートするアーティストにとって、これは記憶に残るパフォーマンスを提供することに集中できる時間を増やし、舞台裏で何が起きているかを心配する時間を減らすことを意味します。

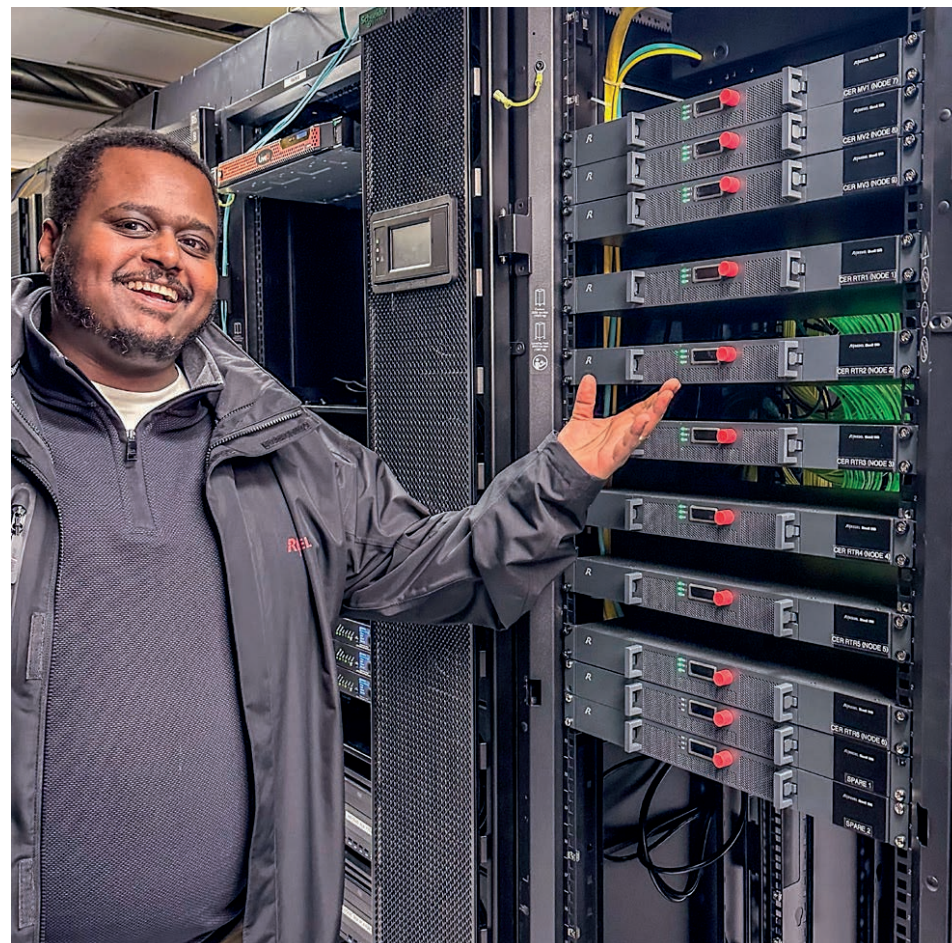
A WINNING ROUTING STRATEGY

FOR ONE OF NORTH AMERICA'S TOP SPORTS VENUES

■ 北米屈指のスポーツ&エンターテインメント施設の一つであるスコシアバンク・アリーナは、システム・インテグレーターの Matrix Video Communications Corp. (MVCC) の協力を得て、Riedel Communications の分散型ルーティング・システム MediorNet を導入しました。MediorNet は、ホッケーやバスケットボール、その他年間を通して数百ものイベントをプロダクション・チームが切り替える際に、大いに必要とされる柔軟性を提供し、セットアップ時間を短縮しています。



“ IPベース上の MediorNet TDM のソリューションを選んだ理由は、今日のニーズを満たすだけでなく、不要な複雑さを排除する信頼性が高く、分かりやすいアプローチを、そして適切なタイミングで IP への明確なアップグレード・パスを提供してくれるアプローチを会場側が求めていたからです ”



▶ ピーター・ツェゲイ
カナダ地域セールス・マネージャー

元々はメジャー・リーグのスポーツのために設計されたこのアリーナは、年間約 200 本のコンサートや数多くのイベントも開催しています。観客動員数とイベント数の両面でライブ・エンターテインメントの最高の目的地とみなされているこの施設は、中央設備とコントロール・ルーム、そして放送技術に基づくワークフローを備え、放送センターのような運用を行っています。しかし、固定スタジオとは異なり、アリーナには建物内のあらゆる場所に複数の「スタジオ」を設置できるため、ソース、デスティネーション、ワークフローは常に変化します。会場の運営チームは、アクションがどこで行われようとも、より近くにルーターを設置できるようにしたいと考えていました。

こういったニーズを満たすため、スコシアバンク・アリーナは、12 年使用したモノリシックなルーティング・システム——ソースとデスティネーションを接続するのに追加カードやフレーム、スローダウン機器、時間のかかる設定が必要でした——と置換すべく、MediorNet MicroN UHD TDM ルーターを選びました。MediorNet の分散アーキテクチャにより、クローゼット、スタンドの下、アリーナのトラック相互接続グループ内など、従来のシステムでは困難だった場所にルーターを設置することができます。現在、アリーナでは 19 台の MicroN UHD ノードが運用されており、施設全体のソースとデスティネーションへの即時アクセスを実現しています。

イベントのコンフィギュレーションの切り替えが迅速かつ簡単になりました。MediorNet があればオペレーターはボタンを 1 回クリックするだけで、すべてのルーター設定、マルチビューワー設定、そしてモバイル・プロダクション・トラックからの入力をリセットできるため、イベント間の切り替え時間を大幅に短縮できます。

IP ベース上の MediorNet TDM ソリューションを選んだことは会場側の要望を反映したものでした、不必要な複雑さなしに今日のニーズを満たす簡潔なアプローチ——そして適切な時期に IP への明確なアップグレード経路を提供すること。これによって、将来を見据えた投資を確実に実現しながら、運用上のメリットを即座に享受できます。

MediorNet MicroN UHD システムに加え、RIEDEL の Artist インターカム・システムと RIEDEL の Bolero ワイヤレス・インターカムも導入されました。どちらもクリアで信頼性の高い通信を実現します。Bolero ワイヤレス・システムは、クリアで安定した音質、バックグラウンド・ノイズの除去、そしてアリーナの刻々と変化するプロダクション・ニーズへの適応性において特に高く評価されています。

▶ MediorNet MicroN UHD





STEEL, HEAT AND COMMS

RIEDEL AT BLUESCOPE PORT KEMBLA STEELWORKS

■ ブルースコープ製鉄所の稼働現場を工場の現場で体験するのは実に壮観です。熱く、騒々しく、容赦のない作業です。全長 200 メートルの製造ラインでは、真っ赤に焼けた 20 トンの鋼板が洗浄され、プレスされ、そして圧延されて、より使いやすい製品へと加工されています。工程の各段階で、オペレーターが「パルピット」〔説教壇〕

と呼ばれる制御ブースから、そして無数のセンサーとメーターを通して、作業を監視しています。時折、何か問題が発生することもあります……そして、そうなった場合は、一刻を争うことになります。コミュニケーションが鍵となり、そのリスクは極めて大きいのです。

ポート・ケンブラ（オーストラリア、ニュー・サウスウェールズ州）のブルースコープ製鉄所は 1960 年代に建設され、最近まで使われていた 2 線式のアナログ・パーティライン通信システムがその時代の証人でした。不安定で柔軟性に欠けるものの、それでも一応は機能し、工場内の通信には最新の Tetra デジタル無線システムが導入され、ある程度の役割を果たしていました。しかし、必然的にケーブル・インフラが故障したため、作業員は固定電話や携帯電話を使って通信せざるを得なくなりました。これは不十分で、安全性にも問題がありました。ブルースコープ製鉄所の電気工学チームのリーダー、ベンジャミン・イェートマン氏は、目的に合った代替通信システムの検討を始めました。「私たちはさまざまなベンダーの選択肢を検討し、それらを私たちの要件に照らし合わせました。主なニーズは、パーティライン通信、通話ルーティングの柔軟性、そして全員へのブロードキャストと個々のパルピットへの通信機能でした」

ベンジャミン氏は慎重に検討した結果、RIEDEL の Artist 通信システムを選択しました。「以前のシステムは 1 チャンネルに固定されていて拡張できませんでした。RIEDEL なら、パルピット間の通信をカスタマイズし、パーティラインを実装し、外部ハードウェアと連携できます。統合はシームレスで、現場で工場全体の通信が改善されたことを実感できるのは、本当に素晴らしいことです」



既存の Tetra 無線システムとの統合は特に重要でした。前述の通り、更新前は有線通信と無線システムは完全にサイロ化されており、パルピットのオペレーターとフロアのクルーは携帯電話で通信することがよくありました。RIEDEL の答えは Juggler と呼ばれるシステムで、Tetra 無線ネットワークを有線インターカム・マトリクスにシームレスに統合します。このシステムによって、Artist システムの任意のポート / グループ / カンファレンスから最大 64 の個別の Tetra 無線グループへの通話が可能になり、その逆も可能です。



Artist が繋がるサードパーティ製システムは Tetra だけではなく、分散型スピーカー、マイクロフォン、ロジックベースのトリガーとも GPIO 経由で円滑に通信します。こういった連携によって、オペレーターは状況に応じて音声信号の優先順位を動的に調整する、応答性と知性を兼ね備えた制御システムを構築することができます。

1200°C の高温鋼と重機を扱う工場では安全が最優先事項です。Artist システムは、現場の緊急管理戦略において極めて重要な役割を果たし、避難手順を躊躇や混乱なく確実に実行できるようにします。



「私たちの避難プロトコルはインターカムに大きく依存しています」とイエートマン氏は続けます。「RIEDELのおかげで、進行中の通信を無効にして緊急放送を優先することができます。これは非常に重要な機能です——高リスクな事態が発生した場合、ボタンの一押しで即座に全員に伝えられるのです」


By Christoph Holder AV.technology

緊急事態以外にも、Artist は複数の音声ストリーム（警報、BGM、工場全体のアナウンス他）を重ねて優先順位付けができるため、運用の明瞭性を確保できます。騒音が多く、分散した現場では、明瞭性が何よりも重要です。

「緊急警報、BGM、避難放送など、オペレーターは常に最も重要な信号を明瞭に聞き取ることができます」とイエートマン氏は結論付けました。

ブルースコープ製鉄所は 24 時間 365 日稼働しており、ダウンタイムはコスト増につながるため、新しい通信プラットフォームのサービスと信頼性は極めて重要でした。ベンジャミン・イエートマン氏は次のように述べています。「サポートは選定の重要な基準でした。RIEDEL は堅牢なサービス・レベル契約とローカル・サポートを提供しており、これは当社の 24 時間 365 日稼働の製造環境にとって非常に重要です。信頼性も不可欠です。通信がなければプロセスは停止します。RIEDEL の Artist フレームに組み込まれた冗長性は、優れた稼働時間と信頼性を実現することが実証されています」

チームが RIEDEL の Artist 通信システムをいかに早く完全に導入したかは驚くべきものです。実際、ベンジャミンと彼のチームがシステムの試運転を終える前から、オペレーターはすでにパルピットの Artist パネルを有効活用していました。今では、このシステムは工場のワークフローに不可欠なものであり、自然な一部となっています。オペレーション・マネージャーのカール・パココヴィッチ氏は、RIEDEL Artist 統合によるもう 1 つの興味深い（そして歓迎すべき）副次効果に気づきました。「各パルピットが他のパルピットと直接通信できるようになり、これは明瞭なコミュニケーションに不可欠です。音質は優れており、十分な音量があって堅牢です。これは、騒音レベルが高い当社の重工業環境では特に重要です。しかし、それ以上に、通信システムがチームを結束させています。パルピットに一人にいるのは、特に新しいチーム・メンバーにとってはかなり孤立する可能性があります。RIEDEL の通信システムによって、そのようなオペレーターを参加させることができ、経験豊富なクルーはさらに良好なコミュニケーションをとることができます。これは士気の向上にも良いことです」



「サポートは選定の重要な基準でした。RIEDEL は堅牢なサービス・レベル契約とローカル・サポートを提供しており、これは当社の 24 時間 365 日稼働の製造環境にとって非常に重要です」

WIRED FOR WORSHIP

BUILDING A MODERN MEDIA NETWORK AT BAPS ROBBINSVILLE

■ アメリカ最大、そして世界で3番目に大きいヒンドゥー教寺院である、ニュージャージー州ロビンズヴィルのBAPS スワミナラヤン・アクシャルダム寺院は、単なる礼拝の場ではありません。文化的な集い、宗教儀式、地域イベントの活気ある拠点として、毎週何千人もの訪問者を迎えています。大理石を用いて建てら

れたこのキャンパスは、何世紀にもわたる伝統を彷彿とさせる精巧な彫刻で飾られた建物が並ぶ、視覚的にも素晴らしい景観を誇っています。しかし、このような美しいファサードの裏には、寺院の繁栄を支える洗練された運営体制が存在しているのです。

BAPS ロビンズヴィルの日常生活の中心には多くのボランティアがいます。献身的なボランティアたちは、キャンパス内の様々な場所で様々な役割を担って活動しています。そのため、堅牢で柔軟性が高く、専門家以外の人でも簡単に利用できるコミュニケーション・メディア・インフラの必要性が浮き上がってきます。アクセシビリティという理念とイノベーションを組み合わせれば、訪問者であれボランティアであれ、誰もがシームレスな体験を享受できます。

これほど広大かつ精巧に構築された寺院に近代的なインフラを設計することは特有の課題を伴いました。大規模なものから小規模なものまで、複数の会場に高品質の映像と音声を配信する必要性は、イベントの調整や宗教儀式の放送にとって不可欠でした。しかし、華麗な大理石造りのため、建設後にケーブル配線を行うことは現実的ではなく、寺院の美観を損なうリスクもありました。技術チームは、強力でありながら目立たず、将来のニーズにも対応できる拡張可能なソリューションを必要としていました。



神聖な空間、スマートなシステム

寺院の設計担当者は当初 IP ベースのシステムを検討していましたが、RIEDEL の MediorNet を見つけたことで方向転換しました。MediorNet は、彼らが必要としていたネットワーク映像配信機能と、SDI ならではのシンプルな操作性を兼ね備えていました。このパワーと使いやすさのバランスは、まさに画期的なものでした。

MediorNet は寺院の技術的要件を満たしただけでなく、ボランティア主導のモデルにも合致していました。RIEDEL ソリューションの直感的なインターフェイスは、専門家ではない人でも簡単に操作でき、拡張性も高く、キャンパス内の大小様々な会場で利用できました。この一貫性が重要なのです：ボランティアは場所を移動することが多いため、統一されたプラットフォームがあれば、1つのシステムを覚えるだけで済みます。これによりトレーニング時間が短縮され、どこで奉仕してもスムーズな運営が保証されます。

システムの核となるのは、光ファイバー・ベースのネットワークと、MediaWorks プラットフォームを基盤とする集中制御アプリケーションです。オペレーターは単一の制御室から、映像フィードの管理、ロボット PTZ カメラの操作、録画再生などを行うことができます。このシステムによって、宗教儀式をオンラインでライブ・ストリーミング配信し、キャンパス全体に表示することが可能になり、参拝者（現地にいる人も遠隔地にいる人も）が寺院生活に完全に参加できるようになります。

このネットワークの際立った特徴は MediorNet インフラ自体です。映像と同期と MADI 音声の分配を処理するだけでなく、MicroN ノードの RJ45 ポートを介してイーサネット接続も提供します。これにより、同じファイバー・バックボーンを用いて寺院全体にデータ・ネットワークを拡張でき、運用を簡素化し、ハードウェアの複雑さを軽減できます。



伝統を支えるテクノロジー

MediorNetとBoleroシステムの統合以来、BAPS ロビンズヴィルは効率性と機能が大幅に向上しました。分散型ネットワークによって、イベントの開催場所を問わず集中的な制作が可能になり、宗教指導者は各寺院間を自由に移動でき、映像と音声も滞りなく伝達されます。ストリーミング・サービスはよりスムーズで信頼性が高くなり、寺院のリーチと包括性が向上しました。また、Bolero ワイヤレス・インターカムはイベントの調整に不可欠な存在となり、混雑した祭りの中でも極めて明瞭な通信を実現しています。

寺院が成長しても、新しいノードを追加したりファイバー・ネットワークを拡張したりすることは簡単な作業となり、BAPS ロビンズヴィルは、その精神的なルーツを守りながら、将来の要求に十分対応できるようになります。

“ RIEDEL のソリューションは画期的なものでした。信頼性が高く、使いやすく、そして驚くほど柔軟性に優れています。式典のライブ・ストリーミング、祭典のコーディネーター、あるいは日々の業務など、どんな場面でも、このシステムのおかげで、私たちは最も重要なこと、つまり地域社会への貢献に集中できます ”



FROM SHORE TO STAGE

SEAMLESS SIGNALS ON SYDNEY HARBOUR



■ハンタ・オペラ・オン・シドニー・ハーバー (HOSH) は毎年、シドニーのウォーターフロントの一角を息を呑むほど美しいパフォーマンス会場の一つへと変貌させます。そして2025年も RIEDEL はその中心にいました。2021年からオペラ・オーストラリアの信頼できるコミュニケーションおよびネットワーキング・パー

トナーとして、RIEDEL Australia のマネージド・テクノロジー・チームは今年の『Guys & Dolls』公演の会場インフラ全体を支え、照明のキュー、舞台転換、FOHのあらゆる瞬間が正確に実行されるようにしました。

街のスカイラインとハーバー・ブリッジを背景にした HOSH には、視覚的な壮麗さだけでなく高度な技術も要求されます。この会場はわずか4週間で何もなかったところから建設され、3,000席の野外円形劇場、フローティング・ステージ、FOHタワー、バックハウス設備、ホスピタリティ・スペースが備えられます。これらはすべて、RIEDEL のマネージド・テクノロジー・チームが設計監修した統合通信データネット・ワークによって相互接続されています。

今年のセットアップでは、ネットワーク化された Artist インターカム・システムに加えて、各部門に18台の2300シリーズ SmartPanel と3台の1200シリーズ SmartPanel が設置されました。毎夜の公演においては、ステージ・クルー用の Bolero ワイヤレス・ベルトバック、フォロー=スポット・オペレーター用の PunQtum 有線システム、警備および会場スタッフ用のトランク型双方向無線機など、約100台の通信エンドポイントが使われました。

統合されたインフラはインターカムだけにとどまりませんでした。MT チームは、インターネット・アクセス、CCTV、セキュリティ・システム、さらにはキャッシュレス決済サービスまでをサポートしました——これらすべてを、重複を削減し、ワークフローを簡素化し、信頼性を向上させるべく設計された単一のファイバー・ネットワーク上で動作させたのです。



「音声、照明、通信用に別々のケーブルを引き回す代わりに、すべての部門を同じバックボーンに接続できる設計にしました」と、RIEDEL のシニア・プロジェクト・マネージャー、ルー・スミスは説明します。「このことは、特にこれほど複雑な現場では、効率性と信頼性の面で大きな利点となります」

シドニー港の海洋環境での作業には、塩霧、水への曝露、牡蠣殻など、特有の課題が伴います。長期的なパフォーマンスを確保するため、水中サービス・トンネルを経由して陸上からフローティング・ステージまで、重装甲の光ファイバー・ラインを敷設し、あらゆる接続ポイントを物理的および環境的損傷から保護しました。



設計には、観客の安全を監視し、事件に迅速に対応するために不可欠であることが証明された堅牢な CCTV システムも含まれていました。「観客席で医療上の緊急事態が発生した場合や、迅速な対応が必要な問題が発生した場合、CCTV は状況を把握し、スタッフを誘導する最良の方法です」と、オペラ・オーストラリアのプロダクション・マネージャー、パブロ・プイグ氏は述べています。



このプロジェクトを真に特別なものに行っているのは、オペラ・オーストラリアと RIEDEL の緊密な連携です。プリプロダクションの計画から毎晩の公演まで、両チームは緊密に連携し、ニーズを予測し、リアルタイムで対応しました。干渉を回避するための RF 調整から、直前のネットワーク要求への対応まで、RIEDEL チームはあらゆる段階でプロジェクトに深く関わっていました。

「オペラ・オーストラリアおよび HOSH とのパートナーシップは、RIEDEL の真髄、すなわち技術革新、コラボレーション、卓越性への飽くなきコミットメントを体現しています」とスミスは語ります。「毎年この特別なイベントを実現することは容易なことではありません。この魔法の実現に貢献できることは私たちの誇りです」

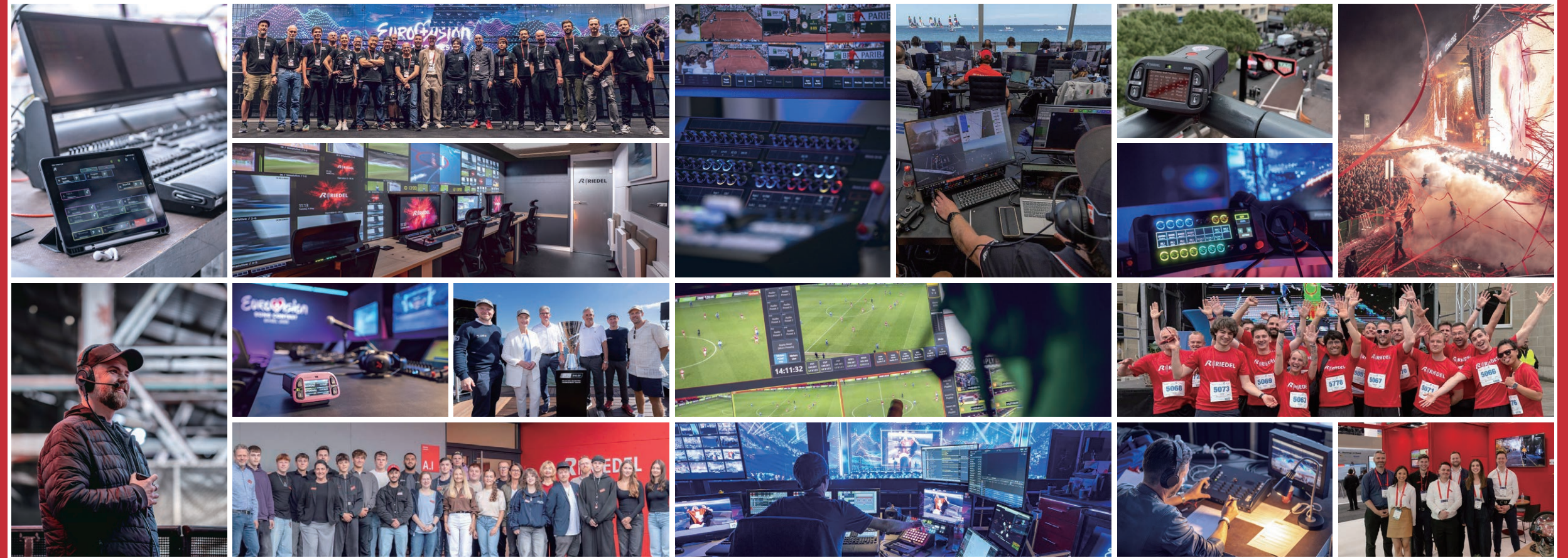
HOSH が屋外ライブ・パフォーマンスの水準を引き上げ続ける中、RIEDEL は、時間どおりに、キューどおりに、そして港において、そのすべてをまとめる明瞭性、コントロール、接続性の提供に貢献できることを光栄に思います。



“ 音声、照明、通信用に別々のケーブルを引き回す代わりに、私たちの設計ではすべての部門を同じバックボーンに接続できるようになっています ”

PROJECT PICTURES

YOUR DAILY UPDATE [f](#) [in](#) [v](#) [@](#) [p](#)





   
www.riedel.net

Riedel Communications Japan株式会社
150-0045東京都渋谷区神泉町8-1
フォーラム渋谷神泉6F
Phone: 03-6233-7673

2025-10/JP